

- 問1 奈良時代、中央政府は地方の支配を強化するため、諸国に対してその地域の情報をまとめた報告書を提出させました。各地域の産物、土地の肥沃（ひよく）さ、地名の由来、そして古くから伝わる伝承などが記録されたこの書物を何といいますか。（2021年 鳥取県公立入試 類似）
- 万葉集
 - 古事記
 - 日本書紀
 - 風土記
- 問2 聖武天皇が、都に東大寺を、全国に国分寺や国分尼寺を建立することを命じた背景にある目的として、最も適切な説明はどれですか。（2022年 香川県公立入試 類似）
- 墾田永年私財法によって得られた余剰資金を管理する拠点を作るため
 - 仏教の力を用いて、疫病や災害などの社会不安を解消し、国家の安定を図るため
 - 遣唐使を廃止し、日本独自の国風文化を全国に浸透させるため
 - 地方の豪族を仏教勢力として組織化し、武力によって蝦夷を制圧するため
- 問3 古代の九州北部に設置された大宰府の役割と、その背景について述べた文として最も適切なものはどれですか。（2022年 山形県公立入試 類似）
- 朝鮮半島や大陸との外交窓口としての役割と、防人の配置などを通じて国防上の拠点を兼ねていた。
 - 明治政府が北方の警備と開拓を同時に行うために設置し、屯田兵を配置した。
 - 鎌倉幕府が御家人たちの間で起こった土地に関する訴訟を裁決するために設置した。
 - 東北地方の蝦夷（えみし）に対抗するための軍事拠点として、鎮守府とともに設置された。
- 問4 743年に「墾田永年私財法」が施行されたことにより、その後の日本の社会に現れた大きな変化として正しいものはどれか。（2024年 静岡県公立入試 類似）
- 班田収授の法がより厳格に守られるようになり、農民の間の貧富の差が完全に解消された。
 - 天皇による直接支配が全国の隅々まで行き渡り、武士という新しい階級が登場する余地がなくなった。
 - 土地の私有化が進んだ結果、米で納める「租」の制度が廃止され、全ての税が貨幣で納められるようになった。
 - 経済力を持つ貴族や寺院が大規模な開墾を行い、のちに「荘園」と呼ばれる私有地が広がる原因となった。
- 問5 聖武天皇が「大仏造立の詔（みことり）」を出した目的と、その後の社会への影響について説明した文として最も適切なものはどれですか。（2023年 鳥取県公立入試 類似）
- 仏教の力で社会の不安を払拭しようと考え、国家的な大事業を通じて中央集権体制の強化を図った。
 - 蘇氏などの有力豪族の勢力を抑えるため、天皇自らが僧侶となって政治の全権を握ることを宣言した。
 - 遣唐使を廃止して日本独自の文化を発展させるため、大陸の影響を受けない巨大な建造物を計画した。
 - 班田収授法を廃止して私有地を認める代わりに、農民から寄付を募って寺院を建立させた。
- 問6 奈良時代以降、人口の増加にともない口分田が不足し、班田収授法を維持することが困難になりました。これに対処するために出された、新しく開墾した土地の永年私有を認める法律を何といいますか。また、この法律が歴史に与えた影響について述べたものを選びなさい。（2018年 大阪府公立入試 類似）
- 「墾田永年私財法」により、公地公民の原則が崩れ、貴族や寺院による荘園開発が進むきっかけとなった。
 - 「新田開発令」により、すべての農民に新しい土地が平等に分配され、班田収授の仕組みが強化された。
 - 「三世一身の法」により、三代にわたる私有が認められたことで、口分田の返還が完全に行われなくなった。
 - 「大宝律令」により、土地の売買が自由化され、農民が自らの土地を自由に処分できるようになった。
- 問7 大宝律令の制定によって確立された「公地公民」の原則に基づき、当時の人々の生活や税制について述べたものとして正しいものはどれですか。（2016年 岩手県公立入試 類似）
- 大名に参勤交代を義務付け、その領地で収穫される米の量を石高として登録した。
 - 有力な農民に名主としての権利を認め、年貢の納入を請け負わせる名主制を導入した。
 - 検地を行い、農地を実際に耕している農民を土地の所有者として認め、地租を課した。
 - 戸籍を作成して人々に口分田を与え、代わりに租・庸・調などの税を課した。
- 問8 聖武天皇が752年に東大寺の大仏を完成させ、また全国に国分寺や国分尼寺を建立した目的について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2019年 香川県公立入試 類似）
- 仏教の力によって社会の不安を鎮め、国家の平安を願うため。
 - 巨大な建築物を作ることで、大陸の諸国を威嚇し外交を有利にするため。
 - 貴族や豪族の富を特定の寺院に集め、その権力誇示に利用するため。
 - 武力を補完するために僧兵を組織し、地方の反乱を制圧するため
- 問9 8世紀の奈良時代、唐から日本へ渡る際に5度の失敗と失明という困難を乗り越えて来日し、日本の僧侶に正しい規律を授ける制度を整えた人物は誰ですか。（2023年 熊本県公立入試 類似）
- 空海
 - 鑑真
 - 最澄
 - 行基
- 問10 710年に現在の奈良県に遷都された平城京は、当時の東アジアにおいて強大な影響力を持っていたある国の都をモデルに設計されました。そのモデルとなった国の名前と、都の名称の正しい組み合わせを選びなさい。（2024年 岐阜県公立入試 類似）
- 隋の大興城
 - 唐の洛陽
 - 隋の長安
 - 唐の長安
- 問11 奈良時代に編纂された歴史書である『日本書紀』の説明として、記述の形式や内容に合致するものを次の中から選びなさい。（2017年 京都府公立入試 類似）
- 地方の産物や地理、伝承をまとめて政府に報告するために作られた。
 - 出来事を年代順に記述する「編年体」という形式で書かれている。
 - 日本に現存する最古の歌集であり、防人の歌などが収められている。
 - 稗田阿礼が読み上げた内容を太安万侶が筆録したものである。
- 問12 律令制のもとで、正丁（成人男性）に対して課せられた負担のうち、布や絹、あるいは各地の海産物や塩といった特産品を都まで運んで直接納めることとされた租税の名称を選びなさい。（2026年 滋賀県公立入試 類似）
- 調
 - 租
 - 雑徭
 - 庸
- 問13 聖武天皇が平城京に東大寺を建立し、金堂内に銅で作られた巨大な大仏（盧舎那仏）を造立した目的として、最も適切な説明はどれですか。（2023年 富山県公立入試 類似）
- 遣唐使の派遣を停止し、大陸の影響を受けない日本独自の文化を確立するため
 - 藤原氏などの有力貴族の勢力を抑え、天皇による中央集権体制を誇示するため
 - 仏教の力に頼ることで、疫病や社会の混乱を鎮め、国家の安泰を願うため
 - 武士の台頭に対抗するため、寺院に独自の軍事力を持たせて都を警護させるため

答え合わせ・解説

問1	答え 4 風土記	奈良時代初期の713年、元明天皇の命によって諸国に編纂（へんさん）が命じられました。地方の状況を詳しく把握し、税収や統治に役立てる目的がありました。現在は「出雲国風土記」がほぼ完全な形で残っているほか、数力国の写本が伝わっています。
問2	答え 2 仏教の力を用いて、疫病や災害などの社会不安を解消し、国家の安定を図るため	当時の社会は天然痘の大流行や凶作、貴族間の対立といった困難に直面していました。聖武天皇はこれらの社会的な混乱を解決するために仏教を重視し、国家の安泰を祈願して大仏の造立や全国的な寺院建立を行いました。これは宗教的な権威によって天皇を中心とする統治体制を強化する狙いもありました。
問3	答え 1 朝鮮半島や大陸との外交窓口としての役割と、防人の配置などを通じた国防上の拠点兼ねていた。	白村江の戦いでの敗北以降、律令国家は唐や新羅からの侵攻に備える必要がありました。大宰府は、現在の福岡県付近という大陸に近接した立地を活かし、使節を迎え入れる外交機能と、水城（みづき）や大野城などの防衛施設を管理する軍事機能を併せ持っていました。
問4	答え 4 経済力を持つ貴族や寺院が大規模な開墾を行い、のちに「荘園」と呼ばれる私有地が広がる原因となった。	土地の私有が認められたことで、豊富な資金や労働力を動員できる有力な貴族や寺院がこぞって開墾を進めました。これが「初期荘園」の形成につながり、国家が直接土地と人民を支配する体制が徐々に形骸化していくことになりました。
問5	答え 1 仏教の力で社会の不安を払拭しようと考え、国家的な大事業を通じて中央集権体制の強化を図った。	聖武天皇は、地震や天然痘の流行といった国難を仏教の信仰によって乗り越えようとししました。この巨大プロジェクトには膨大な労働力と物資が投入され、山口県の長登銅山から銅を運ぶなど、全国規模の協力体制が敷かれることで、天皇を中心とする国家体制が象徴されました。
問6	答え 1 「墾田永年私財法」により、公地公民の原則が崩れ、貴族や寺院による荘園開発が進むきっかけとなった。	当初は「公地公民」を原則としていましたが、人口増による土地不足を解消するため、743年に「墾田永年私財法」が制定されました。これにより、自分で新しく切り拓いた土地は永久に自分のものにできるようになったため、財力のある貴族や寺院が大規模な開墾を行い、「荘園」と呼ばれる私有地が拡大することとなりました。その結果、土地を国が管理して配分する口分田の仕組みは次第に機能なくなっていました。
問7	答え 4 戸籍を作成して人々に口分田を与え、代わりに租・庸・調などの税を課した。	律令制度のもとでは、土地と人民はすべて国家のものとする「公地公民」の考え方が徹底されました。これに基づき、6歳以上の男女に土地を貸し与える「班田収授法」が行われ、戸籍によって管理された人民には、稲を納める「租」や、地方の特産物を納める「調」などの重い負担が課せられました。
問8	答え 1 仏教の力によって社会の不安を鎮め、国家の平安を願うため。	聖武天皇が発した「大仏造立の詔」や「国分寺建立の詔」には、仏教の教えによって人々の心を一つにし、国全体を正しい道へ導くという鎮護国家の狙いが込められています。これは単なる個人の信仰や権力の誇示ではなく、疫病や反乱といった当時の厳しい社会情勢を打開するための国家プロジェクトとしての側面を持っていました。
問9	答え 2 鑑真	唐出身の僧である鑑真は、日本の僧からの強い要請を受け、正式な僧侶となるために必要な「戒律」を伝えるために来日しました。彼は奈良に唐招提寺を建立して律宗の開祖となり、日本の仏教制度の基礎を築きました。最澄や空海は平安時代初期の僧であり、行基は東大寺の大仏建立に協力した僧です。
問10	答え 4 唐の長安	平城京は、元明天皇の時代の710年に、それまでの藤原京から遷都して造営されました。この都は、当時、東アジアの政治・文化の中心として栄えていた唐の都である「長安」をモデルとして設計されており、碁盤の目のように区切られた整然とした街並みが特徴です。当時の日本は遣唐使を派遣し、大陸の進んだ制度や文化を積極的に取り入れていました。
問11	答え 2 出来事を年代順に記述する「編年体」という形式で書かれている。	中国の歴史記述の方式を取り入れ、神代から持統天皇までの出来事を時系列に沿って記録しています。選択肢にある稗田阿礼や太安万侶が関わったものは『古事記』、歌集は『万葉集』、地方の記録は『風土記』を指します。
問12	答え 1 調	律令制における「調」は、各地の特産品を中央政府に納める税です。これに対して「租」は収穫した稲を納めるもの、「庸」は都での労役の代わりに布を納めるものを指します。調は納税者が自ら都まで運ぶ必要があったため、農民にとって非常に重い負担となりました。
問13	答え 3 仏教の力に頼ることで、疫病や社会の混乱を鎮め、国家の安泰を願うため	聖武天皇が発した「大仏造立の詔」には、広く国民の協力を得て仏教の力で世の中を安定させたいという願いが込められていました。当時は天然痘などの疫病が猛威を振るい、多くの犠牲者が出ていた背景があります。この巨大な造立事業には、政府から弾圧を受けていたものの民衆から絶大な支持を得ていた僧の行基も協力し、国家的なプロジェクトとして進められました。

- 問1 奈良時代の聖武天皇は、飢饉や疫病の流行、政治の混乱といった社会の不安を取り除くため、仏教を深く信仰して国を安定させようと考えました。このような「仏教の力によって国家を守ろうとする思想」を何といいますか。 (2019年 香川県公立入試 類似)
1. 王土王民 2. 神仏習合 3. 本地垂迹 4. 鎮護国家
-
- 問2 平城京跡からは、当時の税の仕組みを知る手がかりとなる「木簡」が多数出土しています。例えば、紀伊国（現在の和歌山県）から塩が納められたことを示す記述が見つっていますが、このような地方の特産品を納める税制度について、その特徴を説明したのとして最も適切なものを選びなさい。 (2026年 滋賀県公立入試 類似)
1. 各地の特産品を、納税者自らが都まで運んで納める義務 2. 都で年間10日間働く代わりに、布を納める義務 3. 収穫した稲の約3%を、各国に設置された倉庫に納める義務 4. 九州北部の防衛のために、3年間兵士として派遣される義務
-
- 問3 奈良時代の743年に発令された、新しく開墾した土地を永久に自分のものにすることを認めた法律を何といいますか。 (2016年 奈良県公立入試 類似)
1. 墾田永年私財法 2. 三世一身の法 3. 公地公民制 4. 班田収授法
-
- 問4 大宝律令などの法律に基づき、人々に土地を割り当てて税を納めさせる仕組みや、地方を統治する組織を説明した資料の内容として、正しいものはどれですか。 (2018年 滋賀県公立入試 類似)
1. 豪族が代々所有する私有地を認め、地方の有力者が独自に裁判や軍事を行うことを許可した。 2. 外国との交易を円滑にするための役所を各港に設置し、軍事教練を義務付けることで国防を強化した。 3. 戸籍を作成して人々に口分田を与える班田収授の法を定め、地方を国・郡・里に分けて統治した。 4. 武士を各地方に派遣して土地の管理を行わせ、年貢を米ではなく全て絹や布で納めさせた。
-
- 問5 古代の租税制度について述べた次の説明のうち、全国各地から平城京に集められた「調」の説明として正しいものはどれか。 (2021年 奈良県公立入試 類似)
1. 九州北部の警備のために、防人として兵役につく。 2. 口分田の面積に応じて、収穫した稲の一部を地方の役所に納める。 3. 各地の絹や魚といった特産品を、納税者が都まで運んで納める。 4. 都での労働の代わりとして、布を中央政府に納める。
-
- 問6 8世紀の奈良時代、聖武天皇のころを中心として栄えた、遣唐使がもたらした唐の文化の影響を強く受けた文化を何と呼びますか。東大寺の正倉院に収められた宝物にペルシアやインドの影響が見られるような、国際色豊かな特色を持つものを選びなさい。 (2020年 沖縄県公立入試 類似)
1. 天平文化 2. 国風文化 3. 弘仁・貞観文化 4. 飛鳥文化
-
- 問7 聖武天皇が東大寺に巨大な仏像（大仏）を造立することを決意した背景には、当時の社会情勢が深く関わっています。その背景として適切な説明を選んでください。 (2026年 千葉県公立入試 類似)
1. 日本各地でキリスト教が広まり始め、それに対抗するために仏教寺院のネットワークを強化したかったため 2. 天然痘の流行や飢饉、貴族による政変が続き、それらの災いを仏教の力で鎮めたいと考えたため 3. 大陸との国交を断絶したことで日本独自の文化が衰退し、改めて唐の文化を取り入れる象徴とするため 4. 武士の勢力が増大し、その力を抑えるために仏教を国の最高位の教えとして再編しようとしたため
-
- 問8 聖武天皇が、都に東大寺の大仏を造営したり、全国に国分寺・国分尼寺を設置したりした背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2016年 高山県公立入試 類似)
1. 貴族や僧侶の勢力を抑え、天皇の権力を絶対的なものにするため 2. 律令制度を強化し、法に基づく中央集権体制を完成させるため 3. 唐の進んだ文化を積極的に取り入れ、日本の国際的地位を高めるため 4. 仏教の力で社会の不安を取り除き、国家の安定を図るため
-
- 問9 奈良時代、元明天皇の命により、各国の産物、土地の肥沃さ、地名の由来や古くから伝わる言い伝えなどを記録して提出させた報告書を何といいますか。 (2017年 千葉県公立入試 類似)
1. 古事記 2. 風土記 3. 日本書紀 4. 万葉集
-
- 問10 奈良時代、聖武天皇が都に東大寺を建立し、さらに全国へ国分寺・国分尼寺を建てるよう命じた理由として、当時の背景をふまえた最も適切な説明はどれですか。 (2022年 高知県公立入試 類似)
1. 律令制度の基本となる戸籍の作成を、僧侶に管理させる拠点とするため 2. 遣唐使を派遣するための莫大な費用を、各地の寺院から集める仕組みを作るため 3. 伝染病の流行や政治的な混乱などの社会不安を、仏教の教えによって鎮め、国を安定させるため 4. 武士の勢力に対抗するために僧兵を組織し、天皇中心の軍勢力を強化するため
-
- 問11 8世紀頃の讃岐国（現在の香川県）において、地方政治の拠点であった「讃岐国府」のような役所を中心に行われた統治体制の説明として、適切なものはどれですか。 (2021年 香川県公立入試 類似)
1. 中央から派遣された郡司が、現地の有力者である国司を指導することで、都の文化や制度を全国に広めた。 2. 各地の有力な豪族が藩主となり、中央政府の干渉を受けることなく独自の法律や税制を用いて領地を統治した。 3. 中央から派遣された官吏が、地域の有力豪族を実務担当者に任命し、戸籍の作成や租税の徴収を管理した。 4. 武士の棟梁が地方ごとに地頭を派遣し、現地の豪族であった郡司に代わって土地の管理や警察権を行使した。
-
- 問12 平城京跡などの遺跡から出土する「木簡」の中には、送り主の氏名や地名のほか、中身の品目（布や海産物など）が詳しく記されたものが多く見られます。このような木簡が「税」に関連して果たしていた役割について、当時の社会背景を踏まえた説明として正しいものはどれですか。 (2015年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 防人が九州沿岸の警備に赴く際、その身分や出身地を証明し、兵役の免除を受けるための身分証として機能していた。 2. 租として徴収された稲が、各地方の国庫で適正に保管されているかを検査するための証明書として機能していた。 3. 日宋貿易において、日本から輸出する硫黄や刀剣が密貿易品ではないことを示すための許可証として機能していた。 4. 地方の特産品を都へ運ぶ「調」などの荷物に付けられ、どここの国や郡から納められたものかを明確にする荷札として機能していた。
-
- 問13 奈良時代、743年に出された「墾田永年私財法」では、それまでの「三世一身の法」で定められていた期限付きの土地所有ルールが大きく変更されました。この法令によって、新しく開墾した土地の所有権はどのような形で認められるようになったか、最も適切なものを選びなさい。 (2025年 大阪府公立入試 類似)
1. 子、孫、ひ孫の三代に限って認められる 2. 開墾した本人の一代に限って認められる 3. 期限を定めず、永久に私有することが認められる 4. 開墾から一定期間が経過した後は、再び国に返還される

答え合わせ・解説

問1	答え 4 鎮護国家	8世紀の日本では、天然痘の流行や凶作、貴族間の政争といった深刻な社会不安が続いていました。聖武天皇は、仏の慈悲や加護を政治に取り入れることで、こうした災いから国を救い、安泰に導こうと考えました。この思想を背景に、全国への国分寺・国分尼寺の建立や、東大寺の大仏造立が進められました。
問2	答え 1 各地の特産品を、納税者自らが都まで運んで納める義務	木簡は荷札として利用されており、そこには「調」として納められた特産品の内容や送り主の住所が記されていました。調は、地方の特産品を都の政府に納める義務ですが、運搬にかかる費用や食費もすべて納税者の自己負担であったため、農民の生活を圧迫する大きな要因となりました。
問3	答え 1 墾田永年私財法	人口の増加にともなう口分田の不足を解消するため、政府は当初、723年に「三世一身の法」を出して三代に限り私有を認めましたが、期限が来ると土地が国に没収されるため、農民の開墾意欲は続きませんでした。そこで743年、開墾した土地を永年（永久）に私有することを認めるこの法律が制定されました。この制度により公地公民の原則が崩れ、貴族や寺院が広大な私有地である「荘園」を形成するきっかけとなりました。
問4	答え 3 戸籍を作成して人々に口分田を与える班田収授の法を定め、地方を国・郡・里に分けて統治した。	律令制度のもとでは、全ての土地と人民は国家のものとする「公地公民」の原則がとられました。人々の情報を把握するために戸籍が作られ、それに基づいて「班田収授の法」により口分田が分け与えられました。また、全国を「国・郡・里」という行政区分に分けることで、中央から地方まで支配が及ぶ仕組みが構築されました。
問5	答え 3 各地の絹や魚といった特産品を、納税者が都まで運んで納める。	律令制度下の「調」は、地方ごとの特産物を都に届ける義務を指します。都の役人の給与や儀式の費用、国家の資材として利用されました。選択肢にある「稲の一部を納める」のは租、「労役の代わりに布」は庸、「九州北部の警備」は防人をそれぞれ指しており、制度ごとに納める品目や場所、目的が明確に区分されていました。
問6	答え 1 天平文化	奈良時代の聖武天皇の時期、遣唐使の派遣によって唐の進んだ文化や技術、さらにはシルクロードを経由して西アジアやインドの文物が日本に流入しました。正倉院に遺されている「螺鈿紫檀五絃琵琶」などの宝物は、当時の日本がいかに国際的なネットワークの中にあったかを示しています。
問7	答え 2 天然痘の流行や飢饉、貴族による政変が続き、それらの災いを仏教の力で鎮めたいと考えたため	聖武天皇の治世では、長屋王の変などの激しい権力争いに加え、天然痘の大流行による人口減少や飢饉が発生し、社会は非常に不安定でした。こうした深刻な状況を打破し、人々の心をまとめ、国家を再建する拠り所として、鎮護国家の思想に基づく大仏造立や天平文化の振興が行われました。
問8	答え 4 仏教の力で社会の不安を取り除き、国家の安定を図るため	聖武天皇の治世は、疫病の蔓延や深刻な凶作、さらに貴族間の対立による反乱が重なった時期でした。こうした困難な状況に対し、単なる政治的解決だけでなく、宗教的な権威を活用して人々の心を安定させ、国の混乱を鎮めようとする「鎮護国家」の考え方が採用されました。東大寺は全国の国分寺の中心としての役割を担い、大仏はその象徴として造営されました。
問9	答え 2 風土記	713年に出された編纂の命に基づき、郷土の地理や産物、言い伝えなどを国ごとにまとめた地誌です。律令国家としての地方支配を強めるため、中央政府が各国の状況を詳細に把握する目的で作られました。現在は出雲国（島根県）のものがほぼ完全な形で残っているほか、数カ国の写本が伝わっています。
問10	答え 3 伝染病の流行や政治的な混乱などの社会不安を、仏教の教えによって鎮め、国を安定させるため	聖武天皇が治めていた時期、社会では天然痘などの疫病の流行、飢饉、さらには政治的な反乱などが相次ぎ、民衆や朝廷は大きな不安の中にありました。聖武天皇は、仏教の力によってこれらの災いから国を守ろうとする「鎮護国家（ちんごこっか）」の思想を掲げ、その象徴として東大寺の建立や大仏造立を推進しました。
問11	答え 3 中央から派遣された官吏が、地域の有力豪族を実務担当者に任命し、戸籍の作成や租税の徴収を管理した。	国府は、都から派遣された国司が執務を行う地方行政の中心地でした。ここで国司は、現地の豪族から選ばれた郡司を指導し、律令に基づいた統治を行いました。郡司は代々その土地を治めてきた豪族が任命されたため、土地の事情に精通しており、国司はその影響力を利用して徴税などを効率的に進めました。守護や地頭が設置されるのは後の鎌倉時代であり、藩主による統治は江戸時代のことであるため、律令時代の国司・郡司の仕組みとは異なります。
問12	答え 4 地方の特産品を都へ運ぶ「調」などの荷物に付けられ、どこの国や郡から納められたものを明確にする荷札として機能していた。	奈良時代の税制である租・庸・調のうち、庸や調は地方の特産品を都まで運ぶ必要がありました。全国から膨大な物資が都に集まるため、管理のために「どこの誰が納めたか」を記した木簡が荷札として取り付けられました。この仕組みにより、中央政府は徴税の状況を正確に把握することができました。選択肢にある「勘合（割符）」などの貿易証明書とは、使われた時代も目的も異なります。
問13	答え 3 期限を定めず、永久に私有することが認められる	奈良時代中期、人口の増加にともなう食糧不足を解消するため、政府は土地の開墾を奨励しました。723年の「三世一身の法」では、開墾した土地の私有を三代に限定して認めていましたが、期限が近づくと人々が土地を放置する問題が発生しました。そこで743年に「墾田永年私財法」を制定し、開墾地の所有権を期限なしで「永久」に認めることにしました。これにより開墾が促進されましたが、一方で貴族や寺社が広大な私有地（初期荘園）を形成するきっかけとなり、公地公民の原則が崩れる要因となりました。

1. 法然 2. 行基 3. 空海 4. 鑑真

1. 平氏一族が権力を握り、厳島神社の造営など貴族的な文化が華開いた。	2. 遣唐使によってもたらされた唐の文化の影響を強く受け、国際色豊かな特色をもつ。	3. 国学や蘭学が発達し、庶民の間でも読み・書き・算盤が普及した。	4. 武士の台頭を背景に、力強く素朴な気風をもった文化が全国的に広まった。
-------------------------------------	---	-----------------------------------	---------------------------------------

1. 大宰府の役人として採用され、大陸からの使節を接待する役割を担った
2. 朝廷に直接仕える近衛兵として、都の平城京の警護を専門に行った。
3. 朝鮮半島から移り住んだ渡来人によって組織され、東北地方の蝦夷を鎮圧した。
4. 主に東國の農民から選ばれ、国防の重要拠点であった九州北部の警備にあたった。

1. 万葉仮名を用いて、天皇から防人、農民まで幅広い階層の人々が詠んだ歌をまとめた。
2. 地方の国ごとに、土地の産物や地名の由来、古くから伝わる伝承などが記録された。
3. 律令制度に基づく税の徴収を目的として、各地の戸籍や土地の面積を詳細に記した。
4. 天皇の系譜や国家の成り立ちを、神話や伝説を交えて年代順に体系化した。

1. 口分田 2. 墾田 3. 名田 4. 位田

1. 古今和歌集 2. 懷風藻 3. 新古今和歌集 4. 万葉集

1. 日本書紀 2. 風土記 3. 万葉集 4. 古事記

1. 天武天皇は、律令国家の仕組みを整えるとともに、仏教を広めるため行基を大僧正に任じて大仏を造らせた。	2. 推古天皇は、聖徳太子の補佐を受けて仏教を厚く保護し、地方の豪族に命じて国分寺を建立させた。	3. 桓武天皇は、仏教勢力の政治介入を避けるために都を平安京へ移し、全国に国分寺を建立した。	4. 聖武天皇は、仏教によって国家の安泰を願うため、平城京に東大寺を建立し、全国に国分寺を設けた。
--	--	--	---

1. 地名の由来や、古くからその地域に伝わっている伝説

1. 万葉集・風土記 2. 源氏物語・枕草子 3. 古事記・日本書紀 4. 平家物語・太平記

1. 小野妹子 2. 菅原道真 3. 藤原道長 4. 聖德太子

1. 法隆寺金堂 2. 正倉院 3. 平等院鳳凰堂 4. 登呂遺跡

1. 土地を所有する権利が農民に平等に与えられたことで、貴族の権力が弱まり、武士が台頭するきっかけとなった。	2. 土地の売買が完全に自由化されたため、貧富の差がなくなり、班田収授の法が円滑に運用されるようになった。	3. 土地の永代私有が認められたことで、貴族や寺社による大規模な私有地が形成され、公地公民制が崩れ始めた。	4. すべての土地を国が管理する方針が強化され、農民への口分田の割り当てがより厳格に行われるようになった。
--	---	---	---

1. 天武天皇 2. 推古天皇 3. 天智天皇 4. 聖武天皇

答え合わせ・解説

問1	答え 2 行基	行基は、当初は僧尼令に背いて民衆に布教したとして弾圧されましたが、橋の建設やため池の整備といった社会事業を通じて民衆から絶大な支持を得ました。聖武天皇は、東大寺の大仏造営に必要な膨大な労働力や資金を集めるために、民衆に顔が広い行基の力を必要とし、彼を大僧正として迎えて協力を求めました。
問2	答え 2 遣唐使によってもたらされた唐の文化の影響を強く受け、国際色豊かな特色をもつ。	天平文化は奈良時代の最盛期である聖武天皇の時期に花開いた。遣唐使が中国の唐から最新の制度や仏教、芸術を持ち帰ったため、大陸的な影響を強く受けている。正倉院の宝物にはペルシャ風の楽器やガラス器が含まれており、当時の日本が世界的な文化交流のネットワークの中にあったことを示している。
問3	答え 4 主に東国の農民から選ばれ、国防の重要拠点であった九州北部の警備にあたった。	防人は、当初は全国から集められましたが、後に主に東国（現在の関東地方など）の農民がその任にあたることとなりました。派遣先は太宰府の管轄下にある九州北部であり、家族と離れて遠方の国境を守るという重い負担は、当時の農民を苦しめる要因の一つとなりました。東北の蝦夷対策にあたったのは主に「鎮守府」などに配属された兵士であり、防人とは区別されます。
問4	答え 2 地方の国ごとに、土地の産物や地名の由来、古くから伝わる伝承などが記録された。	風土記は、中央から派遣された国司がその国の情報をとりまとめたものです。朝廷が各地域の資源や文化を把握しようとした目的が背景にあります。一方で、日本書紀や古事記は天皇中心の国家形成の正当性を説くための歴史書であり、記述の対象や目的が異なります。
問5	答え 1 口分田	律令制度のもとでは、政府が国民を管理するために戸籍を作成し、それに基づいて「班田收授法」という仕組みを運用しました。このとき、人々に分け与えられた土地が口分田です。口分田を与えられた人々は、その対価として収穫の約3%を「租」として納める義務を負い、本人が死亡した際には土地を国に返還することが定められていました。
問6	答え 4 万葉集	奈良時代の貴族である大伴家持などが編纂に関わったとされる資料です。同時期には日本最古の漢詩集である『懷風藻』も作られましたが、和歌集としてはこの作品が最古となります。のちの平安時代に編纂される『古今和歌集』などとは、表記方法や収録された歌の詠み手の範囲において大きな違いがあります。
問7	答え 2 風土記	713年に出された編纂の命に基づき、郷土の地理や産物、言い伝えなどを国ごとにまとめた地誌です。律令国家としての地方支配を強めるため、中央政府が各国の状況を詳細に把握する目的で作られました。現在は出雲国（島根県）のものがほぼ完全な形で残っているほか、数カ国の写本が伝わっています。
問8	答え 4 聖武天皇は、仏教によって国家の安泰を願うため、平城京に東大寺を建立し、全国に国分寺を設けた。	国分寺の建立や東大寺の大仏造立は、奈良時代の聖武天皇による事績です。桓武天皇は平安時代の始まりを築いた天皇であり、行基は聖武天皇の時代に民衆への布教や大仏造立への協力で活躍した僧侶です。推古天皇は飛鳥時代の天皇であり、時代背景や政策の主体を正確に区別する必要があります。
問9	答え 2 天皇の家系や中央政府の正統性を裏付ける国家の歴史	風土記はあくまで地方ごとの自然環境や文化、資源を記録した「地理書」としての性格を持っています。天皇の系譜や国家の成り立ちといった公式な歴史をまとめたものは「古事記」や「日本書紀」であり、地方の状況を報告させる目的で作成された風土記とはその役割が区別されています。
問10	答え 3 古事記・日本書紀	奈良時代には、国家としての正当性を示すために大規模な歴史書の編纂が行われました。天武天皇の発案から始まり、後に完成した『古事記』と、漢文で記された正史である『日本書紀』がその代表です。選択肢にある『源氏物語』などは平安時代の文学作品であり、歴史書ではありません。
問11	答え 2 菅原道真	菅原道真は、唐の衰退と往復の航海に伴う命の危険を考慮し、遣唐使の中止を提案しました。これにより、日本は大陸からの直接的な影響を受け続ける時期を終え、それまで取り入れた文化を日本人の感性に合うよう消化させた「国風文化」が発達する大きなきっかけとなりました。
問12	答え 2 正倉院	聖武天皇の死後、光明皇后がその遺愛品を東大寺に納めたことが始まりです。校倉造という高床式の構造により、湿気などから宝物が守られてきました。法隆寺金堂は世界最古の木造建築群の一部、登呂遺跡は静岡県にある弥生時代の遺跡です。
問13	答え 3 土地の永代私有が認められたことで、貴族や寺社による大規模な私有地が形成され、公地公民制が崩れ始めた。	律令国家の基本原則である「公地公民」は、すべての土地と人民は天皇（国家）に帰属するという考え方でした。しかし、墾田永年私財法によって私有地（墾田）が認められたことで、財力のある貴族や寺社が大規模な開墾を行い、自分の土地を広げるようになりました。これが「荘園」と呼ばれる私有地の形成につながり、国家による土地支配体制が揺らぐこととなりました。
問14	答え 4 聖武天皇	奈良時代、相次ぐ災いや混乱を収めるために、仏教を重んじる政治が行われました。聖武天皇は全国に国分寺・国分尼寺を建てることを命じるとともに、その総本山的な役割を持つ東大寺に、国の平安を願って大仏を造立しました。

- 問1 大化の改新以降、8世紀初頭にかけて整備された律令制度の目的と内容について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2015年 富山県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 欧米の近代的な憲法を手本に、議會を開設することで、国民が政治に参加する仕組みをつくること。 | 2. 武家社会の慣習をもとに、御成敗式目を制定することで、武士による裁判の基準を明確にすること。 | 3. 大名を統制するために武家諸法度を定め、幕藩体制による安定した政治を実現すること。 | 4. 唐の法律を参考に、刑罰や政治の仕組みを整えることで、天皇を中心とする中央集権的な国家をつくること。 |
|--|--|---|--|
- 問2 奈良時代、朝廷が東北地方の支配を広げるために、現在の宮城県に設置した行政と軍事の拠点として正しいものはどれですか。 (2021年 群馬県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| 1. 安土城 | 2. 大宰府 | 3. 多賀城 | 4. 国分寺 |
|--------|--------|--------|--------|
- 問3 律令制下で作成された戸籍において、「筑前」という広域の区分の後に空欄A、「嶋」というその下位の区分の後に空欄B、「戸翻川」というさらに下位の区分の後に空欄Cが続く記述形式が見られる場合、A・B・Cに当てはまる地方行政区分の組み合わせとして適切なものはどれですか。 (2023年 青森県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 1. A:国 B:郡 C:里 | 2. A:藩 B:郡 C:村 | 3. A:道 B:府 C:県 | 4. A:国 B:里 C:郡 |
|----------------|----------------|----------------|----------------|
- 問4 飛鳥時代から奈良時代にかけて整備された律令国家の税制のうち、収穫高そのものではなく「口分田の面積」を基準として課され、収穫した稲を地方の倉庫に貯蔵することが義務付けられていた税はどれですか。 (2019年 静岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------------------|---------------------------|---------------------|---------------------------|
| 1. 絹や糸、または地方の特産物を納める調 | 2. 地方の国司のもとで年間60日を限度に働く雑徭 | 3. 都での労役の代わりに布を納める庸 | 4. 班田収授法によって与えられた土地に課される租 |
|-----------------------|---------------------------|---------------------|---------------------------|
- 問5 律令制のもとで、正丁（成人男子）に課された税のうち、都へ赴いて年間10日間働く「歳役」という労役の代わりに、布を納めることとされたものを何といいますか。 (2016年 鹿児島県公立入試 類似)
- | | | | |
|------|-------|------|------|
| 1. 租 | 2. 雑徭 | 3. 調 | 4. 庸 |
|------|-------|------|------|
- 問6 奈良時代、西アジアやインドを起源とする国際色豊かな文化や宝物が、中国大陸での交易を経て日本へもたらされました。これら多くの宝物が現在まで良好な状態で収められている正倉院の品々に見られるような、内陸アジアや西アジアとのつながりを示す陸上の交易路を何といいますか。 (2026年 北海道公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------------|-------------------|-----------|----------------|
| 1. 茶馬古道（ちゃばごどう） | 2. スパイスルート（香辛料の道） | 3. アッピア街道 | 4. シルクロード（絹の道） |
|-----------------|-------------------|-----------|----------------|
- 問7 8世紀の日本の特色をまとめた記述において、当時の文化は「大陸の影響を受けた国際色豊かな文化」と表現されます。この文化を象徴する正倉院に収蔵されている宝物の特徴として、最も適切なものはどれですか。 (2017年 福岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------------------------------|---------------------------------|---|-------------------------------------|
| 1. 平安京への遷都以降に発達した、日本独自の風土や感覚に基づいた品々 | 2. 禅宗の影響を受け、武士の精神性を反映した簡素で力強い品々 | 3. ヨーロッパからの宣教師によってもたらされた、活版印刷機やキリスト教関連の品々 | 4. ペルシャ風の文様やガラス製品など、西アジアや唐の影響を受けた品々 |
|-------------------------------------|---------------------------------|---|-------------------------------------|
- 問8 奈良時代の8世紀半ば、聖武天皇が多額の費用と労働力を投じて大仏の造立や国分寺の建立を進めた背景にある目的として、最も適切な説明はどれですか。 (2021年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------------------------|--|---|---------------------------------------|
| 1. 他国からの軍事的侵略を防ぐため、寺院を軍事的な要塞として利用するため | 2. 急速に普及していたキリスト教に対抗し、日本の伝統的な神道を保護するため | 3. 仏教を国家の教えとして広めることで、疫病や社会不安による混乱を鎮めるため | 4. 有力な貴族たちの財産や権力を抑制し、天皇による独裁体制を強化するため |
|---------------------------------------|--|---|---------------------------------------|
- 問9 防人として九州へ派遣された兵士たちが、故郷や家族を思って詠んだ歌が収められている、日本最古の和歌集を次から選びなさい。 (2017年 神奈川県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|-----------|---------|--------|
| 1. 古今和歌集 | 2. 新古今和歌集 | 3. 日本書紀 | 4. 万葉集 |
|----------|-----------|---------|--------|
- 問10 ある天皇が発した命令文の中で、「人々の救済や仏教を盛んにするために、金銅の大仏を一体造る。このことを全国に知らせ、私の気持ちを皆に知ってほしい」という趣旨の内容が記されています。この命令を出した、東大寺の大仏造立を命じた人物は誰ですか。 (2017年 奈良県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 天武天皇 | 2. 聖武天皇 | 3. 桓武天皇 | 4. 推古天皇 |
|---------|---------|---------|---------|
- 問11 大宝律令の制定によって確立された「公地公民」の原則に基づき、当時の人々の生活や税制について述べたものとして正しいものはどれですか。 (2016年 岩手県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 検地を行い、農地を実際に耕している農民を土地の所有者として認め、地租を課した。 | 2. 有力な農民に名主としての権利を認め、年貢の納入を請け負わせる名主制を導入した。 | 3. 戸籍を作成して人々に口分田を与え、代わりに租・庸・調などの税を課した。 | 4. 大名に参勤交代を義務付け、その領地で収穫される米の量を石高として登録した。 |
|--|--|--|--|
- 問12 奈良時代末期に成立した日本最古の和歌集で、大伴家持が編纂に関わったとされる作品を次から選びなさい。 (2023年 新潟県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------|----------|--------|--------|
| 1. 新古今和歌集 | 2. 古今和歌集 | 3. 懐風藻 | 4. 万葉集 |
|-----------|----------|--------|--------|
- 問13 奈良時代の平城京には、律令制度に基づいて地方から多くの物資が運び込まれました。当時の税制度である「租・庸・調」のうち、都での労働の代わりに布を納める「庸」や、地方の特産物を納める「調」が都に運ばれた実態について、正しい説明を選びなさい。 (2025年 福岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 輸送中の盗難を防ぐため、すべての物資は海路を使って瀬戸内海経由で運ばれた。 | 2. 都の役人が地方へ向向き、それぞれの村で物資を回収して都へ持ち帰っていた。 | 3. これらの税はすべて、九州の防衛を担当していた防人の給与として直接送られていた。 | 4. 農民は、都まで自分たちの足で重い荷物を運ぶという大変な負担を負っていた。 |
|--|---|--|---|
- 問14 古代の日本で行われた「口分田」をめぐる仕組みについて、その内容を正しく説明しているものはどれですか。 (2022年 福岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 江戸時代の村において、名主・組頭・百姓代といった村役人が中心となって、年貢のとりまとめを行った土地である。 | 2. 律令に基づき、6歳以上の男女に土地を与え、死後は国に返還させる一方で、租や労役の負担を課した。 | 3. 明治時代の地租改正において、地価を記した地券を交付することで土地の所有権を認め、金納の義務を課した。 | 4. 室町時代に農民たちが「惣」と呼ばれる自治組織をつくり、村の共有地として共同で管理・運用した。 |
|--|--|---|---|

答え合わせ・解説

問1	答え 4 唐の法律を参考に、 刑罰や政治の仕組みを整えることで、天皇を中心とする中央集権的な国家をつくること。	律令制度は、それまでの豪族による連合体的な政治から、天皇が全国の土地と人民を直接支配する「公地公民」の仕組みへと転換させるための大きな柱でした。刑罰である「律」と行政規定である「令」を使い分けることで、全国を統一的に統治することを目指しました。選択肢にある御成敗式目や武家諸法度は、のちの武士の時代の法律であり、律令とは性質が異なります。
問2	答え 3 多賀城	奈良時代の朝廷は、支配体制を全国に広げる過程で、各地に重要な拠点を置きました。現在の宮城県に築かれた多賀城は、陸奥国の国府（役所）としての行政機能と、当時「蝦夷」と呼ばれた東北地方の人々に対抗するための軍事機能を併せ持っていました。一方、九州に置かれた大宰府は外交や防衛の拠点であり、国分寺は仏教による国家鎮護を目的として全国に建立された寺院です。
問3	答え 1 A:国 B:郡 C:里	律令制度の地方行政区分は、広い範囲から順に「国（くに）」・「郡（こおり）」・「里（り、のちに郷）」と定められていました。「筑前」は国名、「嶋」は郡名に該当するため、この順序が適切です。「道・府・県」は現代、「藩」は江戸時代の区分です。
問4	答え 4 班田収授法によって与えられた土地に課される租	律令制における「租」は、班田収授法によって支給された口分田に対して課されました。収穫した稲の3%程度を納めるもので、飢饉に備えるなどの目的で、主に地方（国衙）の倉庫に保管されました。一方で、特産物を納める「調」や、都に送られて政府の財源となる「庸」などは、民衆が都まで運ぶ負担が非常に重かったという特徴があります。
問5	答え 4 庸	律令時代の中心的な税制（租・庸・調）の一つです。もともとは都での肉体労働が義務付けられていましたが、その労働を免除される代わりに、一定の長さの布を納める仕組みが整えられました。これに対し、収穫した稲を納めるものは「租」、各地の特産物を納めるものは「調」と呼ばれます。
問6	答え 4 シルクロード（絹の道）	古代の中国と西アジア、そしてヨーロッパ方面を結んだ陸上の交易路をシルクロードと呼びます。このルートを通じて、西アジアやインドの楽器、意匠、技法が中国へ伝わり、さらに唐との交流が盛んだった奈良時代の日本にもたらされました。正倉院にはその当時の国際交流を裏付ける品々が数多く保管されており、「シルクロードの終着点」とも称されます。
問7	答え 4 ベルシャ風の文様やガラス製品など、西アジアや唐の影響を受けた品々	聖武天皇の時代の文化は天平文化と呼ばれ、唐の文化や仏教が強く影響していました。正倉院の宝物には、遠く西アジアからシルクロードを渡って伝わった工芸品が多数含まれており、当時の日本が国際的なネットワークの終着点であったことを示しています。桓武天皇による平安遷都後の国風文化とは区別が必要です。
問8	答え 3 仏教を国家の教えとして広めることで、疫病や社会不安による混乱を鎮めるため	当時の記録（年表上の項目など）によれば、この時期は感染症の流行によって多くの命が失われ、政治的な対立も続いていました。聖武天皇は、人々の心のよりどころを仏教に求め、国家が主体となって仏教を奨励することで、社会を平穩に導こうと試みました。これは、単なる個人の信仰を超えた、国の統治政策の一環でした。
問9	答え 4 万葉集	防人は主に東国の農民から選ばれ、任期は3年とされていましたが、現地までの旅費や食糧は自己負担という極めて厳しい条件でした。こうした兵士たちが家族との別れや悲しみを詠んだ歌は「防人の歌」と呼ばれ、当時の庶民の生活や感情を記録した貴重な文学的資料となっています。
問10	答え 2 聖武天皇	『続日本紀』に記された「大仏造立の詔」に関する記述です。聖武天皇は、仏の力によって人々の苦しみを取り除き、国を安定させるために東大寺に大仏を造ることを決意しました。この事業には、弾圧されていた行基を登用するなど、民間の協力も得て進められました。
問11	答え 3 戸籍を作成して人々に口分田を与え、代わりに租・庸・調などの税を課した。	律令制度のもとでは、土地と人民はすべて国家のものとする「公地公民」の考え方が徹底されました。これに基づき、6歳以上の男女に土地を貸し与える「班田収授法」が行われ、戸籍によって管理された人民には、稲を納める「租」や、地方の特産物を納める「調」などの重い負担が課せられました。
問12	答え 4 万葉集	奈良時代を代表する文化遺産であり、約4,500首の歌が収められています。平安時代に編纂された初の勅撰和歌集である『古今和歌集』や、鎌倉時代の『新古今和歌集』と時代の区別をつけることが重要です。また、『懷風藻』は日本最古の「漢詩集」であり、和歌集である本作とは区別されます。
問13	答え 4 農民は、都まで自分たちの足で重い荷物を運ぶという大変な負担を負っていた。	律令国家の財政を支えた「庸」や「調」は、農民が自ら都まで運ぶ「運脚（うんきやく）」という仕組みによって平城京に集められました。食料を持参して長い道のりを歩くこの負担は、当時の農民にとって非常に重いものでした。平城京は、全国各地の富や特産物が集まる物流の拠点としての役割も持っていました。
問14	答え 2 律令に基づき、6歳以上の男女に土地を与え、死後は国に返還させる一方で、租や労役の負担を課した。	口分田は、律令国家が民衆を直接支配し、安定した税収（租）や労働力（労役）を確保するために整備された制度です。土地はあくまで国家から一時的に貸し出されたものという位置づけであったため、売買は禁止されており、本人の死後は再び国に返すという原則がありました。

- 問1 柿本人麻呂が現在の香川県坂出市にある沙弥島（しゃみじま）に立ち寄った際に詠んだ歌が収録されていることでも知られる、奈良時代の歌集「万葉集」の構成に関する記述として、最も適切なものはどれですか。（2020年 香川県公立入試 類似）
- 醍醐天皇の命によって編纂された、日本で最初の勅撰和歌集である。
 - 鎌倉時代初期に後鳥羽上皇の命で編纂され、繊細で情熱的な歌風が特徴である。
 - 漢字のへんやつくりの一部をとって作られた「カタカナ」を用いて、全ての歌が記されている。
 - 防人や農民といった幅広い階層の歌が収められ、素朴で力強い歌風が特徴である。
- 問2 奈良時代の天平文化は、大陸との活発な交流を背景とした国際色彩豊かな文化として知られています。平城京の東側に位置する東大寺の境内にあり、シルクロードを通じてもたらされた世界各地の工芸品や文書が現代まで大切に保管されてきた、校倉造（あぜくらづくり）の倉庫を何といいますか。（2023年 愛知県公立入試 類似）
- 正倉院
 - 唐招提寺
 - 興福寺
 - 法隆寺
- 問3 奈良時代の743年に出来た、新しく開墾した土地について、期限を設けずに永久に自分のものにすることを認めた法令を何といいますか。（2020年 熊本県公立入試 類似）
- 三世一身の法
 - 大宝律令
 - 墾田永年私財法
 - 班田収授法
- 問4 律令制度下の土地の仕組みにおいて、6歳以上の男女に与えられ、死後には政府へ返却することが定められていた土地を「口分田」と呼びます。この口分田の運用実態に関する説明として正しいものはどれですか。（2018年 香川県公立入試 類似）
- 6年ごとに作成される戸籍に基づいて、人々に配分される仕組みであった。
 - 本人が死亡した後も、子孫が代々耕作権を引き継ぐことが認められた。
 - 売買や譲渡が自由に行える、個人の完全な私有地であった。
 - 新しく開墾した者が、永久に自分の土地にできる制度に基づいた土地であった。
- 問5 8世紀の日本において、聖武天皇が国分寺建立の詔（みことり）や大仏造立の詔を出した歴史的背景と目的を説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2016年 岡山県公立入試 類似）
- 戦乱で亡くなった多くの武士や民衆を供養し、極楽往生を願う念仏の教えを全国の農民に普及させるため。
 - 日本古来の神々と仏教を一体とする考え方を広めることで、地方の豪族が持つ独自の宗教的権威を否定するため。
 - 寺院に国民の戸籍を管理させる制度を整えることで、税の徴収を確実にし、幕府の財政基盤を強固にするため。
 - 感染症の蔓延や貴族の反乱による社会の動揺を、仏教の教えに基づいた国家的な祈りによって鎮め、国を安定させるため。
- 問6 奈良時代に編纂された「風土記」の記述内容として、当時の政府が地方を管理する上で重視した視点に当てはまらないものはどれですか。（2017年 岐阜県公立入試 類似）
- 地名の由来や、古くからその地域に伝わっている伝説
 - その土地が農業に適しているかなどの肥沃の状態
 - 天皇の家系や中央政府の正統性を裏付ける国家の歴史
 - その土地で得られる動植物や鉱物などの産物の種類
- 問7 奈良時代の天平文化を代表する文化財の一つで、大伴家持が編纂に関わったとされる、日本に現存する最古の歌集を何といいますか。（2026年 静岡県公立入試 類似）
- 万葉集
 - 古今和歌集
 - 新古今和歌集
 - 懐風藻
- 問8 律令制度における兵役の一つである「防人」について、その実態を説明した文として最も適切なものはどれですか。（2016年 三重県公立入試 類似）
- 九州北部の沿岸警備を目的とし、主に東国の農民が3年の任期で派遣された。
 - 都の宮中の警備を目的とし、全国の農民が1年の任期で交互に派遣された。
 - 外国船の来航に備えるため、江戸幕府が西国の諸大名に命じて組織させた。
 - 東北地方の蝦夷の反乱を抑えるため、志願した農民が永住を前提に派遣された。
- 問9 8世紀前半、聖武天皇の時代に都の平城京を中心に栄えた、仏教と唐の文化の影響を強く受けた国際的な文化を何といいますか。（2022年 岐阜県公立入試 類似）
- 天平文化
 - 飛鳥文化
 - 弘仁・貞観文化
 - 国風文化
- 問10 奈良時代に九州北部に配置された「防人（さきもり）」について、この制度が設けられた背景や実態を説明した文として最も適切なものはどれですか。（2022年 京都府公立入試 類似）
- 地方の有力な武士が結成した軍事組織であり、平城京の警備や天皇の身辺警護を主な任務とした。
 - 源頼朝が全国の要所に設置を認めさせたもので、土地の管理や年貢の徴収を行うことを目的とした。
 - 白村江の戦いでの敗北を受け、唐や新羅による侵攻の脅威に備えて国防を強化するために設置された。
 - 東北地方の蝦夷と呼ばれた人々ととの戦いに備え、近畿地方の農民を北関東へ移住させた軍事制度である。
- 問11 古代日本の律令国家において、戸籍に登録された6歳以上の人々に、生きている間だけ一定の面積の田（口分田）を分け与え、死後は国に返還させた制度を何といいますか。（2015年 長野県公立入試 類似）
- 太閤検地
 - 公地公民の制
 - 班田収授法
 - 地租改正
- 問12 8世紀初めに完成した日本の歴史書について、稗田阿礼が暗誦した内容を太安万侶が書き記し、神話から推古天皇までの事柄をまとめた書物の名称を選びなさい。（2023年 山形県公立入試 類似）
- 万葉集
 - 日本書紀
 - 古事記
 - 風土記
- 問13 鑑真が唐招提寺を拠点として、当時の日本社会や仏教界において果たした役割や背景として最も適切な説明を次から選びなさい。（2022年 東京都公立入試 類似）
- 武士の間に禅宗を広め、質素で力強い文化の形成に寄与した
 - 大規模な灌漑工事や橋の建設などの社会事業を推進し、地方の農村を再建した
 - 正しい僧侶のあり方を定めた戒律を伝え、公式に僧となるための制度を整えた
 - 浄土信仰を広めることで、戦乱に苦しむ民衆の救済を第一の目的とした
- 問14 飛鳥時代から平安時代にかけての古代の日本で行われた、唐との交流やその影響について述べた文として正しいものはどれですか。（2025年 北海道公立入試 類似）
- 朱印船を用いた貿易が盛んになり、その航路を利用して鑑真が古代の日本へ招かれた。
 - 中世の時代に遣唐使が派遣され、鑑真によって新しい仏教の教えが伝えられた。
 - 遣唐使に代わって中世の朱印船が派遣されるようになり、大陸の文化が日本に広まった。
 - 遣唐使の派遣を通じて唐の文化や制度が取り入れられ、僧侶の鑑真が来日した。

答え合わせ・解説

問1	答え 4 防人や農民といった幅広い階層の歌が収められ、素朴で力強い歌風が特徴である。	万葉集は、特定の階級に限定されず、天皇から庶民まで多様な身分の歌が収められているのが最大の特徴です。柿本人麻呂のような宮廷歌人が活躍する一方で、辺境の警備に駆り出された「防人」の悲哀や家族への思いを詠んだ歌も収録されており、当時の社会状況を幅広く反映しています。また、表記には漢字の意味や音を借りた「万葉仮名」が使われています。
問2	答え 1 正倉院	聖武天皇の遺愛品をはじめとする多数の宝物が収蔵されている施設です。三角形の材木を積み上げた校倉造という高床式の構造によって、湿気から宝物を守る工夫がなされていました。ペルシャ（現在のイラン）などからもたらされた品々が含まれることから、「シルクロードの終着点」とも呼ばれます。
問3	答え 3 墾田永年私財法	奈良時代、人口の増加によって農民に配る口分田が不足したため、政府は開墾を奨励するためにこの法令を出しました。それまでは「土地は国家のもの」とする公地公民の原則がありましたが、この法令によって土地の永久私有が認められるようになりました。723年に出された、三代に限り私有を認める「三世一身の法」と混同しないよう注意が必要です。
問4	答え 1 6年ごとに作成される戸籍に基づいて、人々に配分される仕組みであった。	律令制度における口分田は、国家から一時的に貸し与えられた土地という性質を持っていました。政府は正確な人数や年齢を把握するために6年ごとに「戸籍」を作成し、それをもとに公平に配分し直す班田収授を行いました。後に認められる「墾田永年私財法」のような土地の私有化とは異なり、個人の売買や世襲は原則として禁じられていた点が特徴です。
問5	答え 4 感染症の蔓延や貴族の反乱による社会の動揺を、仏教の教えに基づいた国家的な祈りによって鎮め、国を安定させるため。	聖武天皇の治世では、天然痘の流行による人口減少や、藤原広嗣の乱といった政治的混乱が相次ぎました。天皇はこうした災厄を仏教の加護によって取り除こうと考え、鎮護国家の思想の下で大規模な仏教施設の整備を行いました。檀家制度は江戸時代、浄土信仰の普及は平安時代末期以降の動きであるため、奈良時代の背景としては不適切です。
問6	答え 3 天皇の家系や中央政府の正統性を裏付ける国家の歴史	風土記はあくまで地方ごとの自然環境や文化、資源を記録した「地理書」としての性格を持っています。天皇の系譜や国家の成り立ちといった公式な歴史をまとめたものは「古事記」や「日本書紀」であり、地方の状況を報告させる目的で作成された風土記とはその役割が区別されています。
問7	答え 1 万葉集	奈良時代の略年表において、聖武天皇の時期を中心に栄えた天平文化の代表作として位置づけられています。約4500首もの歌が収められており、当時の人々の思想や言語を知る上でも極めて重要な史料です。
問8	答え 1 九州北部の沿岸警備を目的とし、主に東国の農民が3年の任期で派遣された。	白村江の戦いで敗北後、大陸からの侵攻に備えるために九州北部の防衛体制が強化されました。防人はその中核を担いましたが、家族と離れて遠方へ赴く苦しみや生活の困窮は激しく、その様子は『万葉集』に収録された「防人歌」からも読み取ることができます。
問9	答え 1 天平文化	奈良時代の代表的な文化で、遣唐使によってもたらされた唐の文化や仏教が深く結びついています。国際色が豊かであることが特徴であり、聖武天皇の時代にその最盛期を迎えました。
問10	答え 3 白村江の戦いで敗北を受け、唐や新羅による侵攻の脅威に備えて国防を強化するために設置された。	7世紀後半の白村江の戦いで日本（倭）が唐・新羅の連合軍に敗れた後、政府は大陸からの報復や侵攻を恐れ、九州北部に大宰府を置いてその防備を固めました。この国防の最前線に配置されたのが防人です。東国の農民が主に選ばれた理由は、彼らが武芸に優れていると考えられていたためですが、実際には家族を伴うことも許されず、生活は困窮を極めました。
問11	答え 3 班田収授法	大化の改新から律令国家の成立にかけて整備された土地制度です。すべての土地と人民は国家のものとする「公地公民」の原則に基づき、国民に生活の基盤となる田を与える一方で、そこから「租」などの税を徴収することを目的としていました。
問12	答え 3 古事記	天武天皇の命により、帝紀や旧辞を整理する形で編さんが始まりました。稗田阿礼が読み上げた伝承を太安万侶が記録したもので、日本の成り立ちを物語のように記しています。同時期の『日本書紀』が中国の正史を意識して漢文で書かれたのに対し、独自の文体で書かれているのが特徴です。
問13	答え 3 正しい僧侶のあり方を定めた戒律を伝え、公式に僧となるための制度を整えた	当時の日本では、税を逃れるために勝手に僧侶を名乗る者が増えていたため、聖武天皇らは仏教を統制し、僧侶の質を高める必要がありました。鑑真は、僧侶が守るべき厳格なルールである「戒律」を伝え、正式な儀式を経て僧侶を認める制度を確立しました。唐招提寺は、この戒律を重んじる律宗の修行の場として重要な役割を果たしました。
問14	答え 4 遣唐使の派遣を通じて唐の文化や制度が取り入れられ、僧侶の鑑真が来日した。	古代の日本は、唐の優れた制度や文化を吸収するために遣唐使を派遣しました。その交流のなかで、鑑真が日本の仏教の規律を整えるために多くの困難を乗り越えて来日しました。朱印船や中世という語句は、遣唐使が活躍した古代よりも後の時代の事象を指すため、不適切です。